

TURN LAND

プログラム 2025

さくらんぼ



NEW面

ニューメン
つけて
ハイチーズ



TURN LANDでは
アーティストと福祉施設が協働し、
日常の中に、
人と関わるきっかけを
つくる活動を行っています。

参画して4年目となる豊島区立心身障害者福祉ホーム
「さくらんぼ」に現れたのはお面をつけた精霊たち。
初めてだけど、ずっといた、変わらぬ何かとつながって、
不安の種が両手広げて消え去った。

PROJECT INFO.

お面ワークショップ NEW面 ニューメン

TURN
LAND

豊島区立心身障害者福祉ホーム

さくらんぼ

さくらんぼは、
豊島区在住の心身障害者の方が
保護者の死亡・高齢化・疾病などの理由で、
就労または福祉作業所等への通所が
困難となった場合に、住み慣れた地域で
生活ができるよう、自立助長のための
日常生活の援護、支援を
行う施設です。

PROJECT MEMBERS

アオキ 裕キ / Yuuki Aoki



ARTIST

ダンサー・振付家。
「新人Hソケリッサ!」主宰。
言葉のイメージや手作業を通じて
身体の記憶に働きかけ、
個々の表現力を引き出し、
自然な身振りを踊りへと昇華させる
アーティスト。

TURN LANDプログラム事務局

一般社団法人 谷中のおかって

Yanaka no okatte



多様な人々がアートプロジェクトを運営する際の
伴走サポートや、より多くの人々が
個々のアーティストの世界観に
出会い協働できるような状況をつくるチーム。

SCAN ME!

1分間の
活動紹介動画



NEW面 ニューメン ができるまで

アーティスト、施設の職員、利用者の皆さんとの交流が
その場の特性を活かしたアートプログラムを
つくりあげます。

7月

職員向け 体操プログラム

職員会議の合間に体操の時間を作り、
多くの職員たちがアオキと出会う
機会となった。アオキは体の力を
抜くことでリラックスできるよう
導いた。

企画会議

改装工事に伴う引越しを控え、
不安と緊張を抱える職員からは、
職員も利用者もリラックスできる
プログラムをしてほしいとの
意見が上がった。

6月

11月

さくらんぼ 地域交流会

引越し後の施設公開日にアオキが訪れ、
地域の人や施設の短期利用者が
出入りする様子、利用者が来場者と交流する
様子などを見学し、ワークショップ時の
会場の使い方などを検討した。

7月28日

施設での宿泊体験

施設でアーティストと
事務局メンバーが宿泊体験をした。
利用者と職員の日常をより深く知る
機会となり、夕食後の時間などの
交流によって関係が深まった。

夕食後、アーティスト、職員、
利用者で団らん

12月

お面づくり ワークショップ

利用者はあつという間に個性溢れる
お面を制作し、お面の下地が足りず
職員と利用者が一緒に追加分を
作った。お面をつけて公園に行くと、
思い思いにポーズをとり、踊り出した。

利用者と職員
一緒にハイチース

10月

施設見学と提案

引越し後の施設を見学した後、
アオキは宿泊体験から発案した
お面づくりのアイデアを共有した。
アオキが作ったお面を手本に、
職員がお面の下地の作り方を教わった。

アオキが作った
お面をお披露目

さくらんぼ

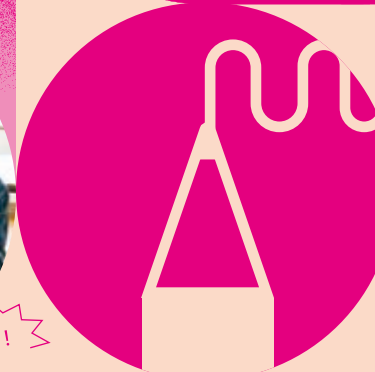
お引越し

ほっこり。



DANCE

真劍！



普段の絵を描く時には、
描かないような遊び心
全開の絵を、楽しそうに
お面に描きました。

完成したお面をつけると、恥ずかしがらず嬉しそうに動き出し、写真を撮ったりアオキとポーズで対話をしたりしてコミュニケーションを楽しみました。



職員 にとって

いつもより
のびのび自由になれる時間

絵が得意な利用者が、アトリエに通って描く情熱的な絵とは違う、いたずら心溢れる無邪気な一面を見せたり、普段共有スペースのソファに座らない利用者がそこで休んでいたり、特別寛げる時間でした。

踊りを引き出す
お面の力を再確認

お面を作る時の集中した空気や、お面をつけた時の気配の変化は、目を見張るものがあり、ポーズをとったり風景の中に擬態したりと、自然に踊りが溢れ出す様子を体験できたことから多くを学びました。

利用者の新たな一面と 出会えた

アーティストとの信頼関係がベースにあることで、レクリエーションの時間ではなく、利用者が居場所を感じたり、新たな一面に出会う機会になることを知り、ケアの視点にも活きる手がかりを得ました。

VALUES



アオキ 裕キ
(アーティスト)

「ポーズも立派な踊りです」

宿泊体験によって職員の視点が見え、夜勤の大変さを痛感しました。あの体験があったからお面のアイデアに踏み切れました。お面づくりの日は、抵抗なくお面をつけて自然にポーズをとったのが良かった。ポーズも踊りとして成立していました。



高取 さくら
(さくらんぼ職員)

「お面の威力は想像以上」

工作などの作業は作業所やアトリエなどでもやるのであまりやりたくないかと思っていたが、やってみると予想外の気づきが多く、これはダンサーならではの視点のあるもので、単なる工作ではないことに気づかされました。



戸村 敦
(さくらんぼ職員)

「関係があつてのことです」

単なるお面づくりではないのでアオキさんがいなかったらあんな出来事は起きなかったと思います。アオキさんと利用者一人一人との関係があつて、あのような表現が生まれてきたんだと感じました。桜の咲く時期など、地域の特性を活かしたものに挑戦してみたいです。

MEMBERS' COMMENTS



TURN LAND
プログラム事務局

「職員の協働姿勢に感謝」

職員の皆さんが、アオキさんの表現者としての特性をしっかりと理解した上で取り組んでくれたことが成果につながったと思います。それも含め、引っ越しに動じないのびのびした空間がすぐに復活したのは、これまでの3年間の積み重ねによる実りだと感じました。



TURN LAND

ってなに？

福祉施設などを拠点に
アートプロジェクトを行う
文化事業です。

誰がやってるの？

東京都、アーツカウンシル東京、一般社団法人谷中のおかってが
共催する事業です。東京都内にある福祉施設や福祉事業所を拠点に、
その施設に出入りする人々（職員や利用者、その家族や地域協力者など）と
プロジェクトチームをつくり、力を合わせてアートプロジェクトを
企画・運営します。

どんなアーティスト？

音楽やダンス、演劇、映像、手工芸など
表現のジャンルはさまざま、その場に関わる人々との
コミュニケーションを楽しみ、交流を通じた
新たな手法開発に前向きな姿勢がある。

なぜアート？

共創型のアートプロジェクトでは、
「作品」をつくるだけではなく、
そこにいる人々と「アートなひととき」を
つくることができます。
これは文化のアウトリーチでもあり、
医学的ケアを超えて、誰もが「人」として
社会参加できる文化的な時間をつくる
挑戦です。

なぜ福祉施設でやるの？

障害のある方が落ち着いて
時間を過ごせる環境
（設備や習慣、人との関係）がある。

個々の障害特性と向き合うことで、
障害をこえて一緒に楽しめる
プログラムが開発できる。

さまざまな理由で文化施設などに
行くことができない
障害のある方たちにアートを届ける。

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京、一般社団法人 谷中のおかって
発行：2026年3月25日
アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）
※営利・非営利を問わず、当資料のコンテンツを許可なく
複製、転用、販売など二次利用することを禁じます。



TOKYO
METROPOLITAN
GOVERNMENT



©TURN LANDプログラムの
公式ホームページ



©TURN LANDプログラムの
他の活動をチェック

